

# 学校法人明治学院 2010 年度事業計画

## I. 学校法人明治学院の事業計画

- 1 明治学院は、わが国の私立学校の中でも最も長い歴史を有する学校として、2013 年度には創立 150 周年を迎える。これまで「キリスト教による人格教育」を建学の精神とする総合的なキリスト教主義の学園として築いてきた歴史と伝統を、さらに一層推進させるために、150 周年を期して思い切った改革や新規事業の実行を図るべく、2010 年を良い準備の年にしたい。

そのため、「明治学院創立 150 周年記念事業」を計画し、この事業を支えるために「明治学院創立 150 周年記念募金」を開始する。これは、事業を成し遂げるのに必要な概算予算約 150 億円の内、その 10%にあたる 15 億円を目標として 2010 年度から 2014 年度まで 5 年間で募金期間として推進する。

- 2 法人部門では、2008 年に抜本改正した寄附行為に基づく新しい管理運営の体制を整備して将来に備える。その体制の下で、一方では、明治学院のスクール・アイデンティティを学院内外に明示する独自の活動を展開し、他方では中・長期財政計画に基づいた財政基盤の一層の強化のために、金融資産の堅実かつ有効な運用、有利子負債の圧縮と利払いの縮減、(株)明治学院サービスの更なる活用を図ることとする。

- 3 大学および大学院は、昨年度連合教授会で大枠承認された中・長期計画としての「21 世紀へボン・プロジェクト」の実施を目指す。教学改革として、本年度より心理学部のなかに本学初の教育系学科である「教育発達学科」をスタートさせ、2011 年度開設の国際学部のなかの新学科の準備を進め、教育・研究の一層の飛躍を図る。教育理念を実現するための教学改革を前進させる。

2010 年度には、2008 年度に作成した「自己点検・評価報告書」に基づき、2009 年度に受審し「適合」と評価された大学基準協会の認証評価結果を活かし、教育・研究の一層の向上に役立てる。

交換留学生(受入れと派遣)増加のための体制を整備し、併せて明治学院としての一貫性のある英語教育に取り組む。

中学・高等学校は、それぞれの将来構想を踏まえながら明治学院大学との系列校としての特性を生かして、少子化の進行がもたらす中等教育段階での競争が激化する中で、生徒の一層の学力向上をめざす。

また明治学院の建学の精神を堅持・発展させるためにも、学院牧師および宗教センター、キリスト教研究所を中心とするキリスト教活動の一層の進展を図る。

- 4 白金校地における大学および高校の施設の将来計画の検討、ならびに横浜キャンパスのエコキャンパス化の実現を目指す。

## Ⅱ. 各部門別事業計画

### 【大学院・大学】

#### 〔学部・学科の新增設計画〕

〈大学院・大学〉

2010年4月心理学部・教育発達学科(定員100名)の新設。

#### 〔教育・研究における重点分野〕

〈大学院〉

- 1 法科大学院を含む、7研究科11専攻からなる大学院は、少数精鋭教育により学問への探究心旺盛な学生の養成をめざすことに重点を置いていく。2010年度より法科大学院は、他大学を含め法科大学院全体の志願者の減少傾向を考慮して、定員を20名削減して60名とする。経済学研究科経営学専攻博士前期課程は、定員を拡大して昼夜開講によるビジネススクールを目指してきたが、日本の企業風土により経営学修士(MBA)の需要が少ないことを反映して定員を30名削減し、10名とする。
- 2 法科大学院は、2009年度新司法試験9名合格の実績(前年度合格者16名比7名減少)を踏まえたうえで、今後の一層の教育の充実を図る。専門職業人養成教育に相応しい厳格な成績評価の徹底を図ると共に、実践的な問題の発見・分析・解決能力を養う「リーガル・クリニック」など、明治学院の教育理念に沿った本格的な臨床法学教育を展開する。
- 3 心理学研究科は、その臨床部門である心理臨床センターの本格稼働により、実践的な教育・研究活動を展開する。地域に開かれた「心理相談クリニック」の開設によって、臨床経験に根ざした教育研究が可能となり、研究者、教員、障がい児・者のための指導者、子育て支援従事者、成人・高齢者支援従事者等の専門家の養成を強化し、さらに(財)日本心理士資格認定協会から指定を受けた大学院として、臨床心理士養成のための機能を発展させていく。
- 4 大学院志願者の増加を図る施策の一環として、今までバラバラに行われていた各研究科の入学説明会を2009年度から「大学院統一オープンキャンパス」として、大学のオープンキャンパスと同日に実施したが概ね好評であり、2010年度も継続する。
- 5 2010年度入学者から大学院・法科大学院の入学金を、他大学出身者30万円を15万円に、本学出身者15万円を無料とするよう引き下げ、より多くの志願者を募る努力をする。
- 6 大学院(論文)指導教員の学部責任コマ数を1コマ軽減し、より本格的な大学院教育に専念できる環境を用意する。

〈大学〉

- 1 キリスト教による人格教育という建学の精神の下に'Do for Others'(他者への貢献)を教育理念とし、さらに①他者を理解できる心豊かな人間、②分析力と構想力を備えた人間、③コミュニケーション能力に富む人間、④キャリアをデザインできる人間、⑤共生社会の担い手となる人間、これらの人間の育成を目標とした5つの教育目標を掲げる。
- 2 英文学科は他大学と比較して過大な学生定員を抱えており、その問題を解決するため現行定員260名を200名に減員する教学改革を断行する。教学改革の内容として、初等英語教育などの新科目群を設置する。そのため「学部・学科改革を支援する教学改革サポートファンド」を用意し、①文部科学省の認可申請を要する学部・学科の新增設、②文部科学省への届け出だけで可能な学科の新增設、というように教学改革を2区分したうえで完成年度までに財政支援(①は総額30百万円 ②は総額20百万円)を行う。

2010年度には心理学部に教育発達学科(定員100名)を開設する関係上、心理学部心理学科は現行定員200名から160名とする。さらに国際学部に英語講義による卒業単位の修得を義務化する新学科(定員50名)の開設のための準備に注力する。

- 3 グローバル時代を迎え、政府は留学生30万人計画を立てている。明治学院を創設したヘボン博士夫妻が、国籍・民族を

越えて日本の少年少女に英語等を教えたという本学の原点に立ち返り、大学全体としても国際交流と語学教育を一層強化する。

特に英学塾に端を発する「英語の明治学院」の伝統を大切にするために、英文学科、国際学科、教養教育センター、国際交流センター等、英語教育関連部署の代表を集めて本学の英語教育の再構築を求め、英語教育の一層の強化、発展を図る。そのために既に設立された「英語教育検討委員会」の提言を活用、留学試験に必要な TOEFL 対策講座を開設し、学生個々人の TOEFL 試験のスコア向上に努めているが、2010 年度は大学における英語教育の向上というテーマ以外に、高校・東村山高校、及び大学との連携校である捜真女学校高等学部、玉川聖学院高等部、横浜英和女学院中学高等学校の英語担当教員の協力により、英語教育における高大接続の実施を目標とする。

海外派遣留学生および海外からの留学生受け入れ増加を図るために、留学生寮の拡大をはかり、国際交流センターを強化する。大田区内の2か所に分散していた交換留学生用の学生寮を2009年度に統合し、奥沢に38室の留学生寮「MG 奥沢ハウス」を確保した。2010年度は国際学部の新学科の開設備備のためにもより規模の大きな留学生寮の確保に努力する。特に留学生受け入れ体制の整備を図るため、留学生と本学学生との交流の場としてのインターナショナル・ラウンジを2010年度中に横浜キャンパスにおいて設置する。また校友会の協力により交換留学生を対象に「校友による留学生支援のためのプロジェクト」を立ち上げ、日本舞踊、華道などの日本文化についての講座を開設している。今後ともこのような明治学院大学らしい留学生の学習・研究の支援を行う。

4 中・長期を展望した教学改革を引き続き推進、また自己点検の実施と大学基準協会による認証評価の結果を活かすことにより、教育・研究の質の一層の向上を図る。特にFD活動を活発化するため、2008年度に設置した外部評価委員会の報告書をホームページで公開中である。また同委員会で指摘された改善要求項目に対して迅速に対処するとともに、教育効果比較測定のための定点観測を可能とする授業評価項目の一層の改善を図る。

5 ヘボンキャリア・プロジェクトを実施し、難関就職先にチャレンジする学生を支援する。そのため、課外講座として全学の2年次生を対象とした基礎講座、3年次生を対象とした集中講座を開設しており、難関就職先としては2008年度の「放送メディアコース」に続き、2009年度には「エアライン・ホテルコース」を実施した。2010年度はまだ完成年度に至らないが、引き続き継続していく。

また経済不況等の理由から、卒業後も就職活動をする卒業生を対象とした就職支援を校友会と連携して実施してきたが、2010年度も経済状況の改善まで当面の開設が必要である。

6 2010年度に開設する心理学部・教育発達学科は、実習校としての小学校を設置することも必要となっていることから、今後は白金キャンパスの近隣での設置をめざしていくことになる。また新学科の学生のみならず、他学科の教職志望学生就職支援のために、キャリア・センターの中に教育キャリア支援課を2010年度よりまずは横浜キャンパスに立ち上げ、教員になるためのキャリア指導に乗り出す。

2009年度から本格的に開始する教員免許更新講習を実施した。当初は明治学院大学で教員免許更新講習を受講希望する対象者として、卒業生教員、系列校・連携校・港区・キリスト教学校教育同盟等の教員が想定されていたが、初年度の受講者は13名であり、うち7名は連携校の教員であった。

7 経済危機への対策として2008年度に設けた緊急奨学金は、その後の経済不況の継続により、2009年度においても困窮した学部学生、留学生のために4千万円ほどの支出を行うこととなった。この緊急奨学金の継続を含め、他大学に比して見劣りする現行奨学金制度を、150周年記念事業のための募金活動によって整備・増額する。

8 2009年度より横浜市内の諸大学（「横浜市内大学間学術・教育交流協議会」加盟大学）の単位互換制度を利用した大学間連携に参加したが、他大学で受講しようとする本学の学生よりも、本学での受講を希望する他大学の学生の方が多かった。2010年度も引き続き大学間連携を推進する。また理系総合大学の芝浦工業大学との間で、同大学・芝浦キャンパスにおけるデザイン工学部との単位互換制度等協力関係をさらに発展させる。

これまで継続してきた港区との連携事業（チャレンジ・コミュニティ大学、障がい者雇用、法律相談等）の推進、小諸市とのボランティア、生涯学習等の地域連携事業を一層発展させる。

京浜地区のキリスト教学校教育同盟加盟の3高校(捜真女学校高等学部、玉川聖学院高等部、横浜英和女学院中学高等学校)との連携協定は科目履修、入試ガイダンス、英語検討会議、教員免許更新講習などにおいて成果を見せている。これらを強化し、系列校を併せた高大連携ネットワークを構築する。

- 9 キャンパス・コンセプトとして、白金キャンパスを歴史と伝統のキャンパス、横浜キャンパスをエコキャンパスと位置付ける。横浜キャンパスは、環境重視型キャンパスとして環境保全と、新学科の教育施設を既存の建物の中に建設したように、効率的利用に努めていく。また横浜キャンパス近隣農家との連携による地産地消は、具体的には横浜キャンパスの食堂より出る残飯と近隣農家栽培有機野菜の交換による取り組みを開始し、食の安全、低炭素社会実現の実践的モデルを提供する。また白金校地における大学施設の将来計画についても検討を開始する。
- 10 図書館は、(財)日本近代音楽館より寄贈される貴重資料を受け入れ、2011年度に予定されている一般公開のための準備を進める。併せて保管庫を確保しつつ、所蔵図書電子化等、一般図書の廃棄を含めた整理を推進し、都心に位置する限られたスペースを有効活用しながら、近代日本の黎明期に建てられた学校にふさわしい特色のある図書館作りを目指す。

**〔学生・生徒の募集計画〕**

1 2010年度大学院募集計画

研究科	専攻	博士前期課程	博士後期課程
文	英文	12	2
	フランス文	10	5
	芸術	10	5
経済	経済	10	3
	経営	10	3
社会	社会	10	2
	社会福祉	10	3
法	法律	—	5
国際	国際	10	3
心理	教育発達臨床	10	4
	心理臨床	20	

計 147名

(経営学専攻博士前期課程を前年度比 30 名減員)

2 2010年度法科大学院募集計画

研究科	専攻	専門職学位課程
法務職研究科	法務専攻	60

(前年度比 20 名減員)

### 3 2010年度大学募集計画

学部・学科		募集人員
文	英 文	200(60名減員)
	フランス文	120
	芸 術	125
経済	経 済	290
	経 営	180
	国際経営	140
社会	社 会	230
	社会福祉	240
法	法 律	280
	消費情報環境法	175
	政 治	120
国際	国 際	270
心理	心 理	160(40名減員)
	教育発達	100(新設)

計 2,630名(前年度と同数)

#### 〔その他の特記事項〕

##### 1 図書館サービスの充実

- (1) 学術情報デジタル化時代の教育の強化のため、演習担当教員と協力し、テーマに沿った検索実習を進めデジタル時代の学術情報利用力を養成する。経済学部の授業科目「インターンシップ」でも実習を行う。
- (2) 本学の学術情報の発信の一環として、本学教員の研究成果を電子データに収録する「機関リポジトリ」として組成したうえで、全国検索を担当する国立情報学研究所と結ぶ準備を行う。

##### 2 校友センター設置に伴う校友サポートシステムの構築

校友センターは、大学校友会(卒業生の全てが会員)の活動を通して明治学院大学の存在感をより強く社会に示していくことを目的としており、2010年度には更なる整備・充実を図っていく。

- (1) 校友会データベースの整備および校友Webサイトのさらなる充実。
- (2) 第34回「校友の集い」の実施(2010年10月)および「各地校友会」の継続実施。校友会報誌の発行(年に2回)。
- (3) キリスト教研究所とタイアップして、ヘボン博士・島崎藤村・賀川豊彦らをテーマとした「ヘボン塾校友講座」を開設し、定員50名に対して70名を超える応募があり、最終的に53名が修了証を受け取った。2010年度はこの実績を踏まえて、本講座による卒業生を対象とした「キリスト教に基づく人格教育」という建学の精神の一貫教育を果たしつつ、校友のアイデンティティのさらなる強化を目指す。

##### 3 「コミュニケーション・プロジェクト」を推進し、「21世紀ヘボンプロジェクト」など大学が発信する教育・研究の内容を社会に上手にアピールできるよう、さらに工夫を加える。

##### 4 教育・研究の成果や学生による'Do for Others'の実践など、積極的に幅広く広報活動を展開し、大学に対する社会の認知度を高める。

## 【高等学校】

### 〔新增設計画〕

2010年4月の改組・増設はなし

### 〔教育・研究における重点分野〕

福音主義キリスト教に基づく人格教育により、(1)ひとりひとりが互いに大切に思う心を育む、(2)真理を探究する力をつける、(3)他者と共に生きる力をつける、ことを目指している。この教育理念は、ヘボン、ブラウン、フルベッキら学院創立者の建学の精神を受け継ぐものであり、「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛しなさい」(ルカによる福音書第10章27節)という聖書の御言葉を基盤にしている。この理念にそって具体的な教育活動を進める。

#### 1 キリスト教教育

- (1)専任教職員の他、教会の牧師および社会的活動を続けている信徒を招き、チャペルで充実した礼拝を持つ。
- (2)キリスト教諸行事に関するプログラム(特別礼拝、宿泊研修会、聖書について語る会、明治学院にゆかりのある先人への墓前礼拝及び清掃、アドヴェント礼拝など)の充実と見直しを図る。
- (3)学院牧師や大学の教員を招いて教育研究会をひらき、広くキリスト教教育について学び合う時を持つ。
- (4)音楽の教科と連携して全員へ讃美歌の指導をすすめる。また、希望する生徒を選抜し学院オルガニストによるオルガン指導をすすめる。
- (5)キリスト教活動広報誌「からし種」の発行、生徒による聖書を主題にした絵画作品の掲示、オルガン・コンサート等を通して、生徒、保護者にキリスト教活動についての理解を深めてもらえるように努める。
- (6)キリスト教学校教育同盟関東地区中高部会による榛名ワークキャンプに継続して参加する。

#### 2 カリキュラムの検討と学力の向上

- (1)1年次では偏りのないカリキュラム、2・3年次では多様な進路を見すえた選択カリキュラムを実施する。また、新カリキュラムへの移行の準備をすすめる。
- (2)「学習の手引き」を作成し、教科内容を提示する。
- (3)教科に対する理解が遅れている生徒への補習、教科を深く学びたい生徒への講習、進路実現のための講習をより一層充実させる。
- (4)音楽・美術・書道などの芸術教科、調理実習・被服実習・消費者教育を取り入れた家庭科、パソコンを使って「調べ学習と発表」の力をつける情報科など、実技を伴う教科にも力を入れる。
- (5)「英語の明治学院」に相応しい英語教育の強化に加えて、実際に活かせるフランス語・韓国語講座も実施する。
- (6)数学の授業の充実をはかるため、少人数による習熟度別授業を実施する。

#### 3 生徒の多様な進路実現のための、きめ細かい指導

- (1)「一人ひとりを大切にする進路指導」により「生徒のさまざまな夢をサポート」することを基本方針とする。
- (2)1年生は、「人間形成と学力の充実」を目標にすえ、「基礎学力」の養成に努めるよう指導する。
- (3)2年生は、「将来の目標と自己の適性の発見」を目標にすえ、「発展学力」の獲得に努めるよう指導する。
- (4)3年生は、「一人ひとりが自主的に自分の道を切り開いて行く」ための「実現学力」の確立に努めるよう指導する。
- (5)学年ごとに、学年・進路通信『ほっぷ』(1年)・『すてっぷ』(2年)・『じゃんぷ』(3年)を定期的に発行する。
- (6)大学入試のための講習・補習を実施すると共に、一人ひとりの進路に合わせた指導を行なう。

#### 4 高大連携の推進

- (1)明治学院大学進学に関して、大学・高校間の意思疎通をはかり、明治学院の中心となる学生を育てるよう努める。明治学院大学進学予定者には、大学と協力して大学入学前教育として行われる、経済学部と法学部による課題の実施、並びに教養教育センター主催の「J. C. バラ・プログラム」に積極的に取り組む。
- (2)明治学院大学が提供する授業科目の受講、明治学院大学生の教育実習およびジョブサポーター制度(社会福祉学

科)への協力、ボランティア活動の協働など多様な分野で高大の連携をはかる。

(3)中・高・大合同の英語教育検討会議に参加し、一貫教育における英語教育の進展を図る。

(4)高3の3学期には、主に明治学院大学進学予定者に対する特別講座を開き、大学への準備及び教養を深める学習を実施する。

## 5 総合学習の整備・発展

(1)1年生は「キリスト教と明治学院」をテーマにガイダンス合宿と横浜フィールドワークを実施する。

(2)2年生は、「教師と生徒がともに生き方を考える体験・研修旅行」を発展させる。A)農作業体験をしながらの田舎暮らしを学ぶ(新潟県魚沼市)、B)青森・下北で環境・エネルギーを学ぶ、C)長崎の文化・歴史を学ぶ、D)沖縄の歴史・文化・自然を学ぶ、E)韓国の歴史・文化の学習および現地の高校生との出会い、F)米国ホームステイ(インディアナ州・カリフォルニア州)、の中から選択させて1年間の授業と実地研修を行い、内容を深めていく。

## 6 国際交流活動の推進

(1)YFU(Youth For Understanding)を通じて年間の留学生2名(オーストリアとタイの高校生)を受け入れ、留学生と明学生との交流をすすめる。

(2)総合学習の一環として実施しているアメリカ・ホームステイ・プログラムの中で、インディアナ州パーデュー大学、ロサンゼルスとサンフランシスコの日系教会との交流をすすめる。

(3)総合学習の一環として友好協力校の提携をした韓国・京花女子高校との交流をすすめる。

## 7 行事・課外活動の充実

(1)水泳大会、オリーブ祭、合唱コンクール、体育祭など、さまざまな行事を生徒たちの手によって運営し、自主性・協調性を育む。

(2)学習、クラブ活動、クラス活動のバランスをとって、豊かな高校生活を過ごせるよう指導する。

(3)教員のクラブ・委員会顧問費を新設し、顧問がクラブ指導をきめ細かくできるようにする。

## 8 教育研究活動の充実

(1)生徒を取り巻く教育状況や現代の生徒の心理について、一般教職員、養護教諭、カウンセラー、保護者と共に学び、話し合う機会を増やす。

(2)教員の研究研修費規程に基づいた適正な執行により、教育・研究活動の充実を目指す。

(3)明治学院大学と協力して、教員免許更新制の講座で研修をすすめる。

## 9 防災教育・訓練、防犯対策の強化

(1)火事・地震などを想定した防災訓練を実施する。東京私立中高協会第二支部と連携し、災害時の情報伝達訓練を実施する。さらに高輪消防署と連携して、教職員向けのAED講習を引き続き実施する。

(2)1年生を対象に防災館(本所)で災害体験と対応の訓練を実施する。

(3)新型インフルエンザ対策の計画、備品設置を行う。

## 【学生・生徒の募集計画】

1 様々な角度から志願者の動向を見極めて、質の高い入学者の確保に努める。

2 基礎学力を向上させるために、推薦合格者に基礎力確認テスト(英数国)を行い、入学前から指導する。

### 3 2010年度募集計画

募集人員 男女330名(前年度同数)

募集方法 推薦入試1回(120名)

一般入試2回(第1回150名、第2回60名)

4 広報活動 学校説明会(校内6回、校外6~7回)

## 【その他の特記事項】

### 1 高校の将来構想

今後の方向を明らかにするために、教職員全員で「将来構想」を作り上げていく。これを基に、明治学院創立 150 周年である 2013 年の校舎完成を旨として改築プランを練り上げていく。

### 2 校舎改築に向けての準備

収入の増加および経費のさらなる節減を目指し、改築資金の充足を図る。

### 3 白金グラウンドの整備

使用頻度の高い白金グラウンドの人工芝の摩耗が激しいため、教育環境整備の観点から人工芝の張り替えを実施する。

### 4 自己点検・評価の実施

年度の終わりに、自己点検・評価を実施する。

### 5 外部の専門機関による評価

外部の専門機関による高校の評価を実施し、教育活動の点検と見直しを行う。

### 6 奨学金制度の創設

同窓会、PTA と協力して、生徒の学費支援のための新たな奨学金制度創設の準備をすすめる。

## 【中学・東村山高等学校】

### 【新增設計画】

2010 年 4 月の改組・増設はなし

## 【教育・研究における重点分野】

「贖罪と愛による教育」を教育理念とし道徳人、実力人、世界人の育成を目指すキリスト教人格主義教育の充実を目指す。

### 1 キリスト教教育

#### (1) 礼拝

本校のクリスチャン教職員だけでなく、社会で活躍する本校出身牧師や献金を継続的に送っている施設・団体の関係者、また近隣教会牧師を招き、社会経験に裏付けられた福音を伝えていく。明治学院全体との精神的つながりを深めるため、学院に働く多くの教職員からも福音を伝えてもらえるよう計画する。

英語教育の観点から、中学は外国人教師が奨励を担当する時は、英語科教師が英語で司会をし、高校は外国人教師の英語奨励に通訳を置かない。

定期的に音楽による礼拝を行う。

#### (2) ボランティア活動

ブラスバンド、ハンドベルによる教会や病院・老人ホームでの演奏等、地域社会のニーズに応えるボランティア活動を展開する。

高校では、支援型ボランティア活動の継続として、フィリピンの経済的に困難な子供の就学支援、タイのエイズ孤児への学費・生活費支援活動の充実を図る。

#### (3) 国際交流

高校生を対象とした米国キリスト教会の支援によるホームステイと、留学制度を一層充実させる。また語学研修と異文化体験のプログラムとして、中 3 を対象としたテネシー州メルヴィルカレッジを拠点としたサマーキャンプを継続して行う。

本校への留学生の受け入れに努め「世界人」としての自覚を持てる教育環境を提供する。東村山市の姉妹都市である米国ミズーリ州インディペンデンス市や(財)日本国際協力センター等からの留学生との交流を深める。

#### (4) 総合学習



中学1年と2年では、学校行事の準備のために総合学習の時間を活用する。また、中学3年と高校1年では、高校2年でのコース選択の前に「キャリア・デザイン教育」を実施する。

#### (5)宗教教育懇談会

近隣教会と協力して宗教教育懇談会を行い、本校の中高生の教会出席に関する情報交換およびキリスト教教育の理解を深める。

### 2 学校評価

学校の自主性・自立性を高め、教育活動の成果を検証し、学校運営の改善と発展を目指す。学校がステークホルダーに説明責任を果たし、家庭や地域との連携協力を深めていくことが必要とされている。

#### (1)教職員宗教研修会

学期毎の教職員宗教研修会で、本校のキリスト教教育の評価と展望を共有する。クリスチャンであるなしに拘わらず、キリスト教教育を共に担う研修を続ける。

#### (2)教職員11月研修

学校運営について継続的に点検・改善を行うために「11月研修」を行う。教職員が学校運営で直面している課題改善に向け点検し、特に英語教育を中心とした教育活動を進展させる研修を行う。また将来構想骨子に基づく具体的な改革を推進する研修を行う。

(3)客観的英語教育評価を得るため GTEC(Global Test of English Communication)を実施する。

(4)外部専門業者による授業評価を行う。

### 3 学力と進学実績の一層の向上

#### (1)中学

プログレス21(英語脳構築の為の英語教育メソッド)の教育効果を検証し、効果的な英語教育を展開する。先取り教育を含め、中高一貫教育を再構築する。

教科に対する理解が遅れている生徒への補習制度並びに、学力の一層の向上を目指す生徒への講習制度を一層充実したものとする。

#### (2)高校

習熟度別授業、少人数授業等で生徒のニーズに合わせた授業を展開する。

プログレス21の授業効果を高めるために、一クラス二分級の習熟度別クラス編成を行う。

英語のみで英語の授業を行える教員を確保する。

2010年度入学者から、高2・高3で受験状況に応じたコース制(明治学院大学受験・他大学受験・その他)の導入を図り、教育効果を向上させる。

明確な職業観をもとにした進路選択ができるキャリアガイダンスを行う。進路ノートの制作を目指す。

「新学習プログラム」および新学習指導要領に基づいた、新カリキュラム並びにシラバスを整備し、入学から卒業までの各学年・各学科の教育目標を明確にする。

教科に対する理解が遅れている生徒への補習制度並びに、学力の一層の向上を目指す生徒への講習制度を一層充実したものとする。

### 4 中高大の連携強化

(1)明治学院大学系列校特別推薦入試に関する情報交換を密にし、特別推薦入試に相応しい生徒の進路指導を確立する。

(2)臨床心理士資格取得を目指す心理学部大学院生の実習受け入れ、他学部からの教育実習受け入れ、ボランティア活動の共催、教科教育活動での協力関係を持つ等、中高大の一層の連携強化に努める。

(3)明治学院大学進学者に対して、明治学院大学と協力し、大学入学前教育として行われる経済学部と法学部からの課題を実施し、並びに教養教育センター主催の J.C.バラ・プログラムに積極的に参加する。また、アカデミックリテラシーの

構築を目指す。

(4)中・高で行われるスピーチコンテストに大学教職員の審査と指導を得て、英語力の一層のレベルアップを図る。

(5)中・高・大合同の英語教育検討会議に参加し、一貫教育における英語教育の進展を図る。

## 5 地域との交流

近隣住民との懇談会により地域との交流・親睦を深め、学校評価を受け、学校運営の改善に役立てる。

地域商店街や自治会と共催で、毎年3月最終日曜日に観桜会を開催し協力関係を深める。

近隣の桜華学院、明法学院との交流を深め、文化活動や生活指導面での協力関係を強化する。

## 【学生・生徒の募集計画】

1 12歳・15歳人口が微減しつづけている中で、入試制度を見直し、多くの受験者の確保を図る。また、入学から卒業までの本校のシラバスを明確に示し、将来構想により構築する「新学習プログラム 2010」の周知を図る。そのために積極的な広報活動を展開し、本校の教育改革について受験生が正確な理解を得られるようにする。教職員全員で募集活動を担い、全校挙げて本校に相応しい生徒を獲得できる体制を取る。小・中学校や塾への訪問を丁寧に行い、パンフレットを直接持参して教育内容の周知を目ざす。

### (1) 中学入試

引き続き2科4科選択入試を実施し、また引き続き試験日を2月2日・4日とする。

### (2) 高校入試

推薦入試募集定員を引き続き40名とするが、推薦条件を厳しくし、質の高い生徒を獲得する方策を検討する。

(3)JR 新小平駅と本校(および桜華学院・明法学院)を結ぶコミュニティバス路線が開設された。しかし朝1便、夕方4便と不便であったが、東村山駅西口再開発の完了により大幅な本数増加が期待される。これは今まで不便であった武蔵野線通学者にとって朗報であり、不便を理由に本校受験を避けていた受験生への広報活動を、拡大させることが可能となる。

2 コンサルタント会社に引き続き受験データの分析と次年度に向けたアドバイスを求め、募集活動について検討し、多くの受験者の確保を図る。

## 3 2010年度募集計画

### 募集人数

中学 140名

高校 240名(新入生120名、移行生120名) (前年度同数)

### 募集方法

中学 一般入試・面接(二日間)

高校 推薦入試(新入生120名のうち40名)

一般入試・面接(第一志望制度は優遇措置)

## 【その他の特記事項】

### 1 財政の安定化を目指した収入増加と支出の厳正管理

生徒納付金収入だけに頼るのではなく、寄付金(教育振興資金)応募の呼びかけを強化する。また卒業生の保護者に呼びかけて、本校教育を支えるための後援会を組織する。

(株)明治学院サービスの活用により、教室貸し出し等の収入の増加を図る。また教員個人研究費支出を含めた支出項目全体の見直しを図ることにより、支出総額の厳正管理に努める。

### 2 2009年度に打ち立てた将来構想を、今年度は「新学習プログラム 2010」として実施する。

(1)キリスト教人格主義教育に根差した道徳人・実力人・世界人の育成。

(2)明治学院大学系列校としてのメリットを活かした教育。

(3)生徒の多方面への進学要求に応える教育。

(4)与えられた使命を見据え、自らの進路を切り開くことの出来るキャリア・デザイン教育。

(5)国際的な視野を持って、日本ばかりでなく世界でも活躍できる人材育成を目指した国際教育。

### 3 卒業生(同窓会員)への働きかけ強化

文化祭でのBack To The Campus(同窓会の企画)の充実、卒業生の成人式および還暦の祝い等同窓会との協働を通して、卒業生の母校愛の結集を図り、今後の教育を支える協力・連携体制を強化する。

### 4 魅力ある学校作りの一環として、体育の授業・クラブ活動等の環境整備、並びに近隣住民に土埃の迷惑をかけないためにグラウンドの人工芝化に本格的に取り組む。